

瀬戸内海における貧栄養化と強光ストレスの組み合わせが 代表的な植物プランクトン種に及ぼす影響に関する研究

Study on the combination effect of oligotrophication and high light stress
in the Seto Inland Sea influencing on representative phytoplankton species

生物資源科学プログラム 矢野諒子

日時: 2024年1月26日 (金) 13:00~
場所: 生物生産学部・C301講義室

瀬戸内海では近年栄養塩環境が劇的に変化し、高度経済成長期の富栄養化を経て、水質規制により現在は貧栄養化状態にあるとされる。水質改善の結果、赤潮の発生件数は減少したものの、基礎生産低下による漁業生産の減少が指摘されている。

代表的な基礎生産者である珪藻類の構成種も大きく変化し、1980年代半ばを境にかつての優占種であったスケルトネマ属からキートセロス属に遷移したとされる。また、依然として有害鞭毛藻類のラフィド藻シャットネラ属による赤潮は夏季に猛威を振るっている。



本研究では、**栄養塩制限に加え強光の要素を組み合わせた環境下における植物プランクトン種ごとの光合成応答の違い**を調べることで、近年の瀬戸内海の環境変化がもたらす植物プランクトンの出現動態・構成種の変化の説明を試みた。

本セミナーは統合生命研究科のセミナーとして、プログラム共同セミナーの対象です。

問い合わせ先 小池一彦 (内線7996)
kazkoike@hiroshima-u.ac.jp